

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	エジソンSTEMラボ		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 1日		2026年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	57	(回答者数) 15
○従業者評価実施期間	2026年 2月 1日		2026年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 6日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	曜日ごとに2種類ずつのプログラムを用意しており、子どもが興味を持てる活動を選択できるようにしている。	毎日、退勤前に情報の共有する時間を設けている。週に1回教室で会議を行い、利用者の様子や支援の方法をスタッフ間で共有している。	地域の子どもを含めたイベントを開催して地域との交流を深める。
2	施設自体が広く部屋区切られているので、気持ちの切り替えや落ち着けるための環境が多い。プログラムごとに部屋が分かれるので進行しやすい。	成功体験を増やすためにプログラムで行う課題の難易度を子どもとの理解に合わせて調整している。	保護者との面談を増やしたり親子で参加できるイベントを行う。
3	連絡帳や送迎時間の連絡、入退室の通知をスマートフォンのアプリを使って行っている。チャットを使ったメッセージのやり取りもできるため、連絡が取りやすい。	保護者にもプログラムの様子が伝わるように様子を写真に撮り連絡帳に添えて送っている。	外部の先生を呼んでDCDなど課題のある子どもに対して更なる支援をする。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	従業員の支援に関する経験やスキルにかなりばらつきがある。	人員の入れ替わりが多いため、従業員が育たない。	社内の勉強会や外部の研修に参加したり、従業員全員で支援方法の共有をする。
2	施設が広く部屋が多い分、施設内に残る従業員が十分にないと目が行き届かない。	送迎に出てしまう従業員の数が多く、施設内に配置することが出来ない。	送迎表の見直し。利用者を他の曜日に案内するなどしてなるべく施設内に従業員が配置できるように調整する。
3	遠方から利用している子どもが多いので送迎時間が前後することがある。また送迎が遅れてしまうことがある。	車2台だけで近くや遠方の送迎も回しているのと、従業員が1人でも休んでしまうと送迎を見直さないといけない。	タクシーを使っでの送迎で対応したり、行けそうなところは他の教室に手伝ってもらう。